

第 51 回 幹 事 会

平成 20 年 2 月 14 日

日 本 学 術 会 議

配布資料

資料 1 議事次第

資料 2 出席者一覧

資料 3 非公開審議事項

資料 9 第50回議事要旨

資料 10 諸報告

資料 11 審議事項

資料 12 対外報告「終末期医療のあり方について」

資料 13 対外報告「医療事故をめぐる統合的紛争解決システムの整備へ向けて」

参考 1 記録 大型計画のあり方検討分科会

参考 2 サイエンスカフェの開催

参考 3 今後の予定

日 時 平成20年2月14日(木) 14:00～

議 題

I 非公開議事項

1 委員会関係

提案1 国際委員会における分科会の委員の決定

提案2 分野別委員会における分科会の委員の決定等

提案3 分野別委員会における分科会の設置期間の延長

2 その他

II 前回幹事会以降の諸報告

III 審議事項

1 対外報告

提案6 「終末期医療のあり方について」

提案7 「医療事故をめぐる統合的紛争解決システムの整備に向けて」

2 総会日程

提案8 第152回総会日程案

3 規則の改正

提案9 日本学会議会議会則の一部改正案

4 国際会議関係

提案10 平成19年度代表派遣の変更(2月実施分)

5 シンポジウム等

提案11 「医工学先端研究と教育の創造的結合」(フォーラム)

提案12 「放送の公共性問題を考える: NHKの「改革」を焦点に」(シンポジウム)

提案13 「ファミリーバイオレンスへの対応策」(シンポジウム)

提案14 「法における国家、市場そして市民社会」(シンポジウム)

提案15 「第22回環境工学連合講演会」(シンポジウム)

提案16 「子どもの健康づくりと食育」(シンポジウム)

提案17 「食と健康・予防医療を考える—ミネラルと油脂栄養の重要性」(シンポジウム)

提案18 「IFAC 国際シンポジウム SYROC02009」(シンポジウム)

4 後援

提案19 国内会議

IV その他

資料 2

第 5 1 回 幹事会（2 月 1 4 日）出席者一覧

会 長	金 澤 一 郎
副会長	鈴 村 興太郎
副会長	土 居 範 久

第一部 部長	広 渡 清 吾
副部長	佐 藤 学

第二部 副部長	北 島 政 樹
幹事	山 本 雅
幹事	鷲 谷 いづみ

第三部 部長	海 部 宣 男
副部長	小 林 敏 雄
幹事	河 野 長
幹事	大 垣 眞一郎

事務局	谷 口 局 長
-----	---------

諸 報 告

第1 前回幹事会以降の経過報告

- | | |
|------------|------|
| 1 会長等出席行事 | P. 1 |
| 2 審議付託等 | P. 1 |
| 3 賞等の推薦 | P. 1 |
| 4 委員会委員の辞任 | P. 1 |

第2 各部・各委員会等報告

- | | |
|--------------------|------|
| 1 幹事会付置委員会の開催とその議題 | P. 2 |
| 2 部会の開催とその議題 | P. 2 |
| 3 機能別委員会の開催とその議題 | P. 2 |
| 4 分野別委員会の開催とその議題 | P. 3 |
| 5 課題別委員会の開催とその議題 | P. 6 |
| 6 サイエンスカフェの開催 | P. 6 |
| 7 総合科学技術会議報告 | P. 7 |

第1 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
1月28日(月) ～29日(火)	IAC 理事会	金澤会長、唐木部長(第二部) 綱木次長、村田参事官
1月30日(水)	IAC&IAP JOINT SESSION (アムステルダム)	金澤会長、唐木部長(第二部) 綱木次長、村田参事官
2月4日(月)	井上學術賞・井上研究奨励賞贈呈式	金澤会長、廣田参事官
2月5日(火)	公開シンポジウム「明日に向かって生命をつなぐー生命科学の最前線ー」	金澤会長
2月8日(金)	〔表敬訪問・意見交換〕 ミゲール・ルイスカバーニャス・イスキエルド(駐日メキシコ) 大使ほか3名	金澤会長、土居副会長、唐木部長(第二部)、村田参事官

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議・付託先
感覚器サミット	感覚器医学協議会会長	第二部
企画展「秦佐八郎博士サルバルサン探索 99 年記念展示会魔法の弾丸 99 年の歩み」	秦佐八郎博士記念展示会実行委員会実行委員長	第一部 第三部

3 賞等の推薦

件 名	照会先	備 考
本田賞	各部	見送り
THE WORLD FOOD PRIZE 賞	各部	見送り

4 委員会委員の辞任

法学委員会「不平等・格差社会とセーフティ・ネット」分科会

亀本 洋(平成20年1月24日付)

総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会

秋山 守(平成20年1月21日付)

第2. 各部・各委員会報告

1 幹事会付置委員会の開催とその議題

(1) 憲章委員会（第9回）（2月7日）

- ①素案の検討 ②その他

2 部会の開催とその議題

(1) 第一部 拡大役員会（第12回）（1月24日）

- ①「日本の学術の長期展望」について ②日本学術会議の「意思の表出」および「文書の公表」の形式について ③第21期への移行と分科会について
④「人文社会科学と学術」分科会の今後の進め方について
⑤各分野別委員会における分科会対外報告の進捗状況について ⑥その他

(2) 第二部会（第10回）（2月5日）

- ①公開シンポジウム「明日に向かって生命（いのち）をつなぐー生命科学の最前線ー」について ②3月末に設置期限を迎える課題別分科会について
③各委員会、分科会からの報告 ④期の終了と分科会活動の総括等について
⑤その他

(3) 第三部 拡大役員会（第13回）（2月6日）

- ①意思の表出と各分野からの提言・報告とりまとめ等について ②会員・連携会員の改選について ③理数系学会教育問題連絡会への対応について
④物理学委員会対外報告「学術研究の質と量の向上のためにー「知の循環」の創成」の審議 ⑤基礎科学の大型計画のあり方と推進方策検討分科会記録（案）の審議 ⑥その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 選考委員会会員候補者選考実務分科会

人文・社会科学分野会員候補者選考実務小分科会（第2回）（1月25日）

- ①会員候補者の選考 ②その他

(2) 選考委員会会員候補者選考実務分科会

生命科学分野会員候補者選考実務小分科会（第2回）（1月25日）

- ①会員候補者の選考 ②その他

(3) 選考委員会会員候補者選考実務分科会

理学・工学分野会員候補者選考実務小分科会（第2回）（1月29日）

- ①会員候補者の選考 ②その他

(4) 科学者委員会

- ①平成 19 年度日本学術会議主催公開講演会「鉱物資源の持続可能性と資源問題への展望」を 1 月 25 日（金）に東京大学小柴ホールにて開催した。
- ②平成 19 年度日本学術会議主催公開講演会「生殖補助医療のいま—社会的合意を求めて—」を 1 月 31 日（木）に日本学術会議講堂にて開催した。

(5) 学協会の公益機能検討等小分科会（第 2 回）（2 月 8 日）

議題：前回議事要旨の確認、論点整理、今後の予定、その他

(6) 科学と社会委員会（第 16 回）（1 月 29 日）

- ①対外報告「我が国における研究評価の現状とその在り方について（案）」、及び要望「脱タバコ社会の実現に向けて（案）の査読結果について
- ②日本学術会議が公表する文書の改称と定義の明確化について
- ③「誕生シリーズ」について ④その他

(7) 科学と社会委員会 科学力増進分科会（第 16 回）（2 月 5 日）

- ①科学技術リテラシー小委員会の活動報告 ②サイエンスアゴラの結果報告 ③学術の動向特集の分担について ④サイエンスカフェについて ⑤その他

(8) G8 学術会議分科会（第 14 回）（2 月 8 日）

- ①G8 学術会議共同声明について ②その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 第一部関連分野別委員会合同 人文社会科学と学術分科会（第 3 回）（1 月 24 日）

- ①「日本の学術の長期展望」について ②日本学術会議の「意思の表出」および「文書の公表」の形式について ③第 21 期への移行と分科会について
- ④「人文社会科学と学術」分科会の今後の進め方について
- ⑤各分野別委員会における分科会対外報告の進捗状況について ⑥その他

(2) 法学委員会 法史学・歴史法社会学分科会（第 7 回）（1 月 28 日）

- ①対外報告書の作成について ②その他

(3) 法学委員会 「IT 社会と法」分科会（第 4 回）（2 月 1 日）

- ①対外報告に向けて各自の分担部分の報告と検討 ②その他

(4) 心理学・教育学委員会 心の先端研究と心理学専門教育分科会（第 3 回）（2 月 2 日）

- ①「心の先端研究」バーチャル共同研究拠点への展望

(5) 心理学・教育学委員会 心の先端研究と心理学専門教育分科会 (第4回) (2月3日)

①心の先端研究拠点と心理学専門教育に関する政策提言

(6) 社会学委員会 包摂的社会政策に関する多角的検討分科会 (第1回) (2月4日)

①委員長・副委員長・幹事の選出 ②シンポジウムの開催について

③今後の活動の進め方

(7) 地域研究委員会 地域情報分科会 (第10回) (2月7日)

①提言内容の検討 ②その他

(8) 心理学・教育学委員会 心理学と社会科学分科会 (第1回) (2月11日)

①役員の選出 ②今後の分科会運営について ③その他

第二部担当

(1) 歯学委員会 臨床系歯学分科会 (第6回) (1月25日)

①公開シンポジウム「疾病構造の変化を見据えた歯科医療の展開」について

②その他

(2) 臨床医学委員会 血液・造血分科会 (第4回) (1月28日)

①対外報告の作成について ②その他

(3) 臨床医学委員会 障害者との共生分科会 (第7回) (1月28日)

①各小委員会報告 ②対外報告書の取りまとめについて ③その他

(4) 農学基礎委員会 育種学分科会 (第3回) (1月31日)

①当面の育種および育種学の課題について ②その他

(5) 健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会 (第6回) (2月1日)

①シンポジウムについて ②その他

(6) 農学基礎委員会 農業経済学分科会 (第8回) (2月2日)

①東アジア経済連携に関するヒアリング

テーマ「中国における三農問題と食料自給の可能性」(仮)

巖 善平 (桃山学院大学教授)

②検討の進め方について ③その他

(7) 農学基礎委員会 (第8回)、生産農学委員会 (第8回) 合同委員会 (2月5日)

①分科会委員長・副委員長が連携会員の場合の農学基礎委員会と生産農学委員会への出席について ②その他

(8) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・基礎医学委員会合同分子生物学分科会
(第2回)(2月5日)

- ①本分科会の追加メンバーの決定 ②二人目の幹事の選出 ③本分科会の活動提案 ④その他

(9) 健康・生活科学委員会 生活科学分科会(第11回)(2月14日)

- ①対外報告について ②シンポジウムについて ③その他

第三部担当

(1) 物理学委員会(第8回)(1月25日)

- ①意思の表出方法の在り方について ②物一の対外報告の審議 ③他の分科会の活動状況と報告の予定 ④その他のWG等の活動報告 ⑤春の学会におけるインフォーマルセッション ⑥その他

(2) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 フロンティア人工物分科会(第4回)(1月28日)

- ①各WGの進捗状況報告 ②対外報告作成への具体的手順の検討 ③その他

(3) 電気電子工学委員会 制御・パワー工学分科会(第3回)(1月28日)

- ①制御・パワー工学分科会の検討事項の背景説明 ②関連する各種データの説明 ③ロボット・メカトロニクスに関する大学の教育・研究の有り様 ④対外報告について ⑤その他

(4) 地球惑星科学委員会・土木工学・建築学委員会合同 国土・社会と自然災害分科会
(第2回)(1月30日)

- ①分科会の活動について ②各小委員会の活動について ③その他

(5) 土木工学・建築学委員会 拡大役員会(第13回)(1月30日)

- ①各分科会活動報告 ②学術の動向特集の進捗状況について ③その他

(6) 心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・環境学委員会・土木工学・
建築学委員会合同 子どもの育成環境分科会(第3回)(1月31日)

- ①小委員会報告 ②対外報告の全体構成の検討 ③その他

(7) 総合工学委員会 巨大複雑系経済システムの創成力を考える分科会(第5回)(1月31日)

- ①巨大複雑系社会経済システムの特性比較テーブルについて
②出口の視点に対する審議について ③その他

(8) 地球惑星科学委員会 国際対応分科会 拡大役員会(第1回)(2月1日)

- ①平成20年度代表派遣申請について ②各組織からの年次報告について
③委員構成について ④今後の地球惑星科学の国際対応について

- (9) 物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会 (第7回) (2月4日)
①意思の表出方法の在り方について ②物一の対外報告の審議 ③春の学会におけるインフォーマルセッション ④本分科会よりの報告文書について
⑤その他
- (10) 環境学委員会 環境政策・環境計画分科会 (第4回) (2月7日)
①シンポジウム「自然共生型流域圏と都市・地域環境の再生について」
(平成 20. 3. 17) について ②対外報告に向けての審議
- (11) 環境学委員会 環境科学分科会 (第2回) (2月8日)
①環境科学の枠組みと将来展望について ②その他
- (12) 地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会 (第7回) (2月9日)
①報告ー学術会議の動向について ②連合大会ユニオンセッションについて
②地球惑星科学の現状と将来について ③その他

5 課題別委員会の開催とその議題

- (1) 研究評価の在り方検討委員会 (第8回) (1月28日)
①報告書(案)について ②要望書について ③その他
- (2) 生殖補助医療の在り方検討委員会 (第15回) (1月30日)
①報告書(案)について ②その他
- (3) 生殖補助医療の在り方検討委員会 拡大役員会 (第1回) (2月7日)
①報告書(案)について ②その他

6 サイエンスカフェの開催

2月15日(金) 18:30～20:30

場 所: サロンド富山房 Folio

テーマ: 手足のように働く手足のない連中～体の中の「アメーバ」たち

講 師: 垣内康孝(お茶の水女子大学特任講師)

室伏きみ子(お茶の水女子大学教授)

3月8日(土) 14:00～15:30

場 所: 愛知芸術文化センター10階「ガーデンレストラン華」

テーマ: こどもと建築

講 師: 仙田 満(東京工大名誉教授、前日本建築学会会長)

3月15日(土) 15:00～16:10

場 所：三省堂書店神保町本店2階 喫茶「ピッコロ」

テーマ：「遺伝子組換え作物を考える～花粉症の緩和対策を例として」

講 師：高岩 文雄(独立行政法人 農業生物資源研究所 遺伝子組換え作物開発センター センター長)

3月21日(金) 18:30～20:30

場 所：サロンド富山房 Folio

テーマ：リスクとリスクコミュニケーション

講 師：小山富士雄(東京大学環境安全本部特任教員)
室伏きみ子(お茶の水女子大学教授)

5月10日(土) 13:00～15:00

場 所：みえ県民交流センター「交流スペース」

テーマ：「温暖化の影響評価を考える」

講 師：野上道夫(日本大学教授)
春山成子(三重大大学教授)

7 総合科学技術会議報告

1 本会議

(第73回)

1月30日

- (1) 2008年の科学技術政策の重要課題
- (2) 平成20年度科学技術関係予算案の概要
- (3) 最近の科学技術の動向

2 専門調査会

○基本政策推進専門調査会(第7回)

1月29日

- (1) 地域科学技術施策WG、iPS細胞WGについて
- (2) 科学技術外交の強化に向けて
- (3) 平成20年度科学技術関係施策について

○生命倫理専門調査会(第47回)

1月31日

- (1) 生命倫理の基本概念と医学研究規制のあり方

3 総合科学技術会議有識者議員会合

- ・ 1月31日
- ・ 2月14日 *会長出席

審 議 事 項

(対外報告)

- 提案 6 対外報告「終末期医療のあり方について」 (資料 1 2 参照) P. 1
- 提案 7 対外報告「医療事故をめぐる統合的紛争解決システムの整備へ向けて」
(資料 1 3 参照) P. 2

(総会日程)

- 提案 8 第 152 回総会日程案 P. 3

(規則の改正)

- 提案 9 日本学術会議会則の一部を改正する規則案 P. 5

(国際会議関係)

- 提案 10 平成 19 年度代表派遣の変更(2 月実施分) P. 10

(シンポジウム等)

- 提案 11 「医工学先端研究と教育の創造的結合」(フォーラム) P. 12
- 提案 12 「放送の公共性問題を考える: NHK の「改革」を焦点に」(シンポジウム) P. 14
- 提案 13 「ファミリーバイオレンスへの対応策」(シンポジウム) P. 16
- 提案 14 「法における国家、市場そして市民社会」(シンポジウム) P. 17
- 提案 15 「第 22 回環境工学連合講演会」(シンポジウム) P. 18
- 提案 16 「子どもの健康づくりと食育」(シンポジウム) P. 21
- 提案 17 「食と健康・予防医療を考える—ミネラルと油脂栄養の重要性」(シンポジウム)
P. 23
- 提案 18 「IFAC 国際シンポジウム SYROC02009」(シンポジウム) P. 24

(後援)

- 提案 19 国内会議の後援 P. 25

6	
幹事会	5 1

提 案

対外報告

終末期医療のあり方について
 ー亜急性型の終末期についてー

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 臨床医学委員会終末期医療分科会における対外報告を別添（資料 1 2）のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「対外報告」として取り扱うこと

7	
幹事会	5 1

提 案

対 外 報 告

「医療事故をめぐる統合的紛争解決システムの整備へ向けて」

1. 提案者 法学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 医療事故紛争処理システム分科会のこれまでの審議結果を別添（資料１３）のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
「対外報告」として取り扱うこと

8	
幹事会	5 1

提 案

第152回総会日程（案）

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおりとすること。

第 1 5 2 回総会日程（案）

—第 2 0 期第 7 回—

第 1 日程表

10:00 ~ 12:00 ~ 13:30 ~ 16:30 ~				
4 月 7 日 (月)	総 会 ・ 提案事項説明 会則の改正 憲章の決定 ・ 特別講演	昼休み	部 会 ・ 提案事項審議	幹 事 会
10:00 ~ 12:00~12:30~14:00 ~ 16:30 ~				
4 月 8 日 (火)	部 会	昼休み	幹 事 会	総 会 ・ 提案事項採決 ・ 各部長・委員長による 活動報告 ・ 自由討議
10:00 ~ 12:00 ~ 13:30 ~ 15:30~				
4 月 9 日 (水)	委員会等	昼休み	委員会等	(幹 事 会)

(総会中の日程は、審議の状況により変更される場合があります。)

第 2 会場

総 会……講 堂

部 会……各会議室

幹事会……大会議室

9	
幹事会	5 1

提 案

日本学術会議会則の一部を改正する規則案

- 1 提 案 者 鈴木副会長
- 2 議 案 標記について、別紙案のとおり総会に提案すること。
- 3 提案理由 意思の表出について種類の名称及び定義を変更する必要があるため。

○日本学術会議規則第 号

日本学術会議法（昭和二十三年法律第二百一十一号）第二十八条の規定に基づき、日本学術会議会則の一部を改正する規則を次のように定める。

平成二十年 月 日

日本学術会議会長 金澤 一郎

日本学術会議会則の一部を改正する規則案

日本学術会議会則（平成十七年日本学術会議規則第三号）の一部を次のように改正する。

第二条第三号を次のように改める。

三 提言

第二条中第四号を第五号とし、第三号の次に次の一号を加える。

四 報告

別表を次のように改める。

別表（第二条関係）

種類	表出主体	定義
要望	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、学術会議が政府及び関係機関等の実現を望む意思表示をすること。
声明	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、学術会議がその目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。
提言	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、部、委員会又は分科会が実現を望む意見等を発表すること。
報告	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、部、委員会又は分科会が審議の結果を発表すること。
回答	学術会議	関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、学術会議が回答すること。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○ 日本学術会議会則（平成十七年日本学術会議規則第三号）

（傍線の部分は改正部分）

改 正 案	現 行																																	
（意思の表出） 第二条 学術会議は、日本学術会議法（以下「法」という。）第四条に定める諮問に対する答申及び法第五条に定める勧告のほか、法第三条第一号の職務として、次に掲げる意思の表出をすることとし、その表出主体及び定義は別表のとおりとする。 一 要望 二 声明 三 提言 四 報告 五 回答 別表（第二条関係） <table><tr><th>種類</th><th>表出主体</th><th>定義</th></tr><tr><td>要望</td><td>学術会議</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、学術会議が政府及び関係機関等に実現を望む意思表示をすること。</td></tr><tr><td>声明</td><td>学術会議</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、学術会議がその目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。</td></tr><tr><td>提言</td><td>部、委員会又は分科会</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、部、委員会又は分科会が実現を望む意見等を発表すること。</td></tr><tr><td>報告</td><td>部、委員会又は分科会</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、部、委員会又は分科会が審議の結果を発表すること。</td></tr><tr><td>回答</td><td>学術会議</td><td>関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、学術会議が回答すること。</td></tr></table>	種類	表出主体	定義	要望	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、学術会議が政府及び関係機関等に実現を望む意思表示をすること。	声明	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、学術会議がその目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。	提言	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、部、委員会又は分科会が実現を望む意見等を発表すること。	報告	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、部、委員会又は分科会が審議の結果を発表すること。	回答	学術会議	関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、学術会議が回答すること。	（意思の表出） 第二条 学術会議は、日本学術会議法（以下「法」という。）第四条に定める諮問に対する答申及び法第五条に定める勧告のほか、法第三条第一号の職務として、次に掲げる意思の表出をすることとし、その表出主体及び定義は別表のとおりとする。 一 要望 二 声明 三 対外報告 四 回答 別表（第二条関係） <table><tr><th>種類</th><th>表出主体</th><th>定義</th></tr><tr><td>要望</td><td>学術会議</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等に実現を望む意思表示をすること。</td></tr><tr><td>声明</td><td>学術会議</td><td>法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。</td></tr><tr><td>対外報告</td><td>部、委員会又は分科会</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。</td></tr><tr><td>回答</td><td>学術会議</td><td>関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。</td></tr></table>	種類	表出主体	定義	要望	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等に実現を望む意思表示をすること。	声明	学術会議	法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。	対外報告	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。	回答	学術会議	関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。
種類	表出主体	定義																																
要望	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、学術会議が政府及び関係機関等に実現を望む意思表示をすること。																																
声明	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、学術会議がその目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。																																
提言	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、部、委員会又は分科会が実現を望む意見等を発表すること。																																
報告	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、部、委員会又は分科会が審議の結果を発表すること。																																
回答	学術会議	関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、学術会議が回答すること。																																
種類	表出主体	定義																																
要望	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等に実現を望む意思表示をすること。																																
声明	学術会議	法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。																																
対外報告	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。																																
回答	学術会議	関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。																																

(参考)

意思の表出の表出先、表出主体の区分

種 類	表出先	表出主体
勸 告	政府	日本学術会議
要 望	政府 and 関係機関等	日本学術会議
声 明	政府・関係機関・ 社会等	日本学術会議
提 言	政府・関係機関・ 社会等	部 or 委員会 or 分科会
報 告	政府・関係機関・ 社会等	部 or 委員会 or 分科会

1 0	
幹事会	5 1

提 案

平成19年度代表派遣の変更（2月実施分）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり変更すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第21条第2項及び附則第3項の規定に基づくものである。

＜参考＞「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣実施計画の変更等）

- 第21条** 関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画若しくは派遣者の変更をすべき事情が生じた場合は、その理由を付して速やかに会長に通知しなければならない。
- 2 会長は、前項の規定による通知があった場合は、理由を付して改めて幹事会の承認を得るものとする。ただし、やむを得ない事由により事前に幹事会の承認が得られない場合は、事後に追認を求めるものとする。

附 則

- 3 平成19年度国際学術交流代表派遣実施計画に係る代表派遣については、なお従前の例による。

別紙

会議名称	派遣期間（会期分）	開催地（国）	派遣者	変更内容	変更理由
第４回IYPE(国際惑星地球年)各国国内委員会会合	2月12日～2月13日	パリ（フランス）	佃 栄吉	派遣期間の変更	主催者の都合のため
	↓ 2月12日～2月14日				

1 1	
幹事会	5 1

提 案

生体医工学フォーラム「医工学先端研究と教育の創造的結合」の開催

1. 提案者 基礎医学委員会委員長
2. 議 案 標記フォーラムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議 基礎医学委員会 生体医工学分科会
2. 日 時 平成20年3月3日(月) 10:00～17:00
3. 場 所 東京大学山上会館(東京都文京区本郷7-3-1)
4. 次 第

(1) 開催趣旨

21世紀の学術研究と教育には異分野間の交流と融合によって新しい分野を開拓することが必要である。本フォーラム「医工学先端研究と教育の創造的結合」は異分野融合、医工連携、産学官連携を推進して我が国の生体医工学のさらなる発展を図ることを目的としている。

(2) プログラム

○ 午前の部 (10:00-11:45)

開会の挨拶 梶谷 文彦(学術会議生体医工学分科会委員長)

司会 土肥 健純(東京大学工学系研究科教授)

講演 1) 未来型医療を創る医工連携と社会：ナビゲーション手術

橋爪 誠(九州大学医学研究院教授)

2) 生物と無生物の接点 ―腫瘍マーカー開発から学んだ教訓―

加藤 紘(山口大学名誉教授)

3) NAIST バーチャル戦略コア：バイオイメーjingプログラム

千原 國宏(奈良先端科学技術大学副学長)

○ 午後の部 前半(13:00-14:45)

司会 佐久間 一郎(東京大学工学系研究科教授)

講演 4) 医工連携、地域連携により医療機器の研究開発技術者を育てる
―私立大学大学院工学研究科の立場から―

大場謙吉（関西大学システム理工学部教授）

5) 細胞シート工学による再生医療

岡野光夫（東京女子医科大学先端生命医科学研究所所長）

6) 歯学における生体医工学研究

山本照子（東北大学歯学研究科教授）

基調講演（14:45-15:25） 東京大学の国際戦略

平尾公彦（東京大学副学長）

○午後の部 後半（15:30-17:00）

司会 安藤 譲二（東京大学医学系研究科教授）

講演 7) わが国におけるライフサイエンスと工学等の融合領域の研究開発
の推進 ―第3期科学技術基本計画を受けての取組み―

重藤和弘（内閣府 科学技術政策担当 参事官）

8) ライフサイエンス分野の動向と文部科学省の取組み

菱山 豊（文部科学省 研究振興局ライフサイエンス課長）

9) 医療機器開発の拠点づくりへの取組み

新木 一弘（厚生労働省 医政局研究開発振興課長）

10) 経済産業省における医療機器研究開発について

渡辺弘美（経済産業省 医療・福祉機器産業室長）

閉会の挨拶 加藤 紘（学術会議生体医工学分科会副委員長）

5. 分科会の開催

同日、同場所において分科会を開催予定

12	
幹事会	51

提 案

公開シンポジウム

「放送の公共性問題を考える：NHKの「改革」を焦点に」の開催

- 1 提案者 社会学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 社会学委員会メディア・文化研究分科会
2. 日 時 平成20年3月17日（月） 13：00～17：00
3. 場 所 日本学術会議 5－A(1)(2)会議室 5階
4. 分科会の開催 同日に開催予定
5. 次 第
(開催趣旨)

インターネットの急速な普及に見られるようにメディア環境は大きく変化している。また、こうした環境の変化を背景にして、通信・放送制度の見直しが議論され、放送法の改正も議論されている。こうした中で、この間、さまざまな課題に直面することとなったNHKの「改革」が進められている。

こうした状況のもとで、放送の公共性をどう考えるか、特にNHKの公共性をいかに発展させるかについて議論することは、社会と学術の双方にまたがるきわめて重要な課題と言える。本シンポジウムは、研究者、ジャーナリスト、ドキュメンタリー番組の制作者などに登壇していただき、多様な視点からこの問題を論議する。

開会あいさつ：吉見俊哉（東京大学大学院情報学環情報学府長、日本学術会議連携会員）

I 講演（１３：１０～１４：５０）

- 1)伊藤 守（早稲田大学教育・総合科学学術院教授、日本学術会議連携会員）
- 2)遠藤 薫（学習院大学法学部教授、日本学術会議連携会員）
- 3)音 好宏（上智大学文学部教授）
- 4)原 寿雄（ジャーナリスト）
- 5)桜井 均（NHK放送文化研究所主任研究員）

II 討論など（１５：１５～１６：４５）

閉会のあいさつ：田嶋淳子（法政大学社会学部教授、日本学術会議連携会員）

事前申し込みは必要ありません。

問い合わせ先

早稲田大学教育・総合科学学術院伊藤守研究室 電話０３－５２８６－１８６８

E-mail mamorui@waseda.jp

13	
幹事会	51

提 案

公開シンポジウム「ファミリーバイオレンスへの対応策」の開催

- 1 提案者 法学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。
記

1. 主 催 法学委員会ファミリー・バイオレンス分科会
2. 後 援 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会
3. 日 時 平成20年3月21日（金）14：00 ～ 16：30
4. 場 所 日本学術会議5階 5-A(1)(2)会議室
5. 分科会開催について 同日に開催する
6. 次 第
(開催趣旨)

近年、殺人罪に占める親族間殺人の割合も増加の傾向を見せ、家庭内における暴力被害は依然として、深刻な状況にある。「配偶者等暴力防止法」「児童虐待防止法」等の成立により、法的対策も図られつつあるが、他の家族による暴力に悩む家族も多く、総合的対応策が図られる必要があると考え、我が分科会は検討を重ねてきたが、ここに、いくつかの提言を行い、対策を進めるための助としたい。

開会あいさつ：町野朔（上智大学教授、日本学術会議会員）

I 講 演（14：00 ～ 15：30）

- 1) 戒能民江（お茶の水大学教授、日本学術会議連携会員）
- 2) 奥山真紀子（国立成育医療センター・こころの診療部長、日本学術会議連携会員）
- 3) 岩井宜子（専修大学教授、日本学術会議連携会員）

II 討論など（15：40～16：30）

閉会あいさつ：原ひろ子（城西大学客員教授、日本学術会議連携会員）

※参加費無料、事前申し込みは必要ありません。

【お問い合わせ先】

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

専修大学 岩井宜子研究室

電話：03-3265-6917

Fax：03-3265-6962

Eメール：yos-iwai@nifty.com

14	
幹事会	51

提 案

公開シンポジウム 基礎法学総合シンポジウム（第2回）「法における国家、市場そして市民社会」 の開催について

- 1 提案者 法学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。
記

1. 主 催 日本学術会議法学委員会、基礎法学系学会連合
2. 日 時 平成20年4月5日（土）13：30～17：30
3. 場 所 日本学術会議講堂
4. 次 第
（開催趣旨）

基礎法学総合シンポジウムは、第1回を2007年3月に開催し、「法的制度としての私と公をめぐって」をテーマとして取り上げた（シンポジウムの内容は『学術の動向』2007年8月号に収録）。今回は、第2回目として「法における国家、市場そして市民社会」をテーマとして設定する。現代世界の変動をいかに捉えるかと同時に、法的世界構築の基本原理のあり方をめぐって基礎法学の多様なアプローチによる議論の展開が期待されている。

開会あいさつ：水林 彪（法制史学会代表理事、一橋大学教授、日本学術会議連携会員）
企画趣旨説明：広渡 清吾（日本法社会学理事長、東京大学教授、日本学術会議会員）

I 講 演

- 1) 『『市民社会論』と主権論』 大野 達司（法政大学教授）
- 2) 「類個統合と＜国家・市場・市民社会＞－『所有』カテゴリーからのテーマへのアプローチ」 棚澤 能生（早稲田大学教授、日本学術会議連携会員）
- 3) 「体制転換と市民社会・国家・市場－旧ソ連諸国における資本主義化と法」 大江 泰一郎（静岡大学教授）
- 4) 「＜国家・市場・市民社会＞と法の歴史－『公共なるもの』からの一考察」 三成 賢次（大阪大学教授）

II コメント

- 1) 白藤 博行（専修大学教授、日本学術会議連携会員）
- 2) 森 謙二（茨城キリスト教大学教授）

III 討論

閉会挨拶：滝澤 正（上智大学教授、日本学術会議連携会員）
司 会：嶋津 格（千葉大学教授、日本学術会議連携会員）

※ 参加費無料、事前参加申込不要。

【問い合わせ先】

日本学術会議 審議第一担当

電 話：03-3403-5706

E-mail：s251@scj.go.jp

1 5	
幹事会	5 1

提 案

「第 22 回環境工学連合講演会」の開催

1. 提案者 土木工学・建築学委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議土木工学・建築学委員会
2. 共 催 (社)化学工学会、(社)環境科学会、環境資源工学会、
(社)空気調和・衛生工学会、(社)高分子学会、(社)資源・素材学会、
(社)地盤工学会、静電気学会、(社)大気環境学会、(社)土木学会、
(社)日本化学会、(社)日本機械学会、(社)日本建築学会、(社)日本水道協会、
(社)日本セラミックス協会、日本太陽エネルギー学会、(社)日本鉄鋼協会、
(社)日本土壌肥料学会、(社)日本分析化学会、(社)日本水環境学会、
日本リスク研究学会、(社)日本冷凍空調学会、廃棄物学会

3. 日 時 平成 20 年 4 月 14 日（月）～15 日（火）

4. 場 所 日本学術会議 講堂

5. 次 第
開催趣旨

現代社会が直面する地球環境問題に貢献するための省エネルギー技術について、多様な分野を代表する多くの学協会に所属する一線の研究者達が一同に会し、それぞれ異なる視点からの話題提供に対する討議と意見交換を通して、地球環境問題について考えるためのシンポジウムとする。

第 1 日目（4 月 14 日）

- (1) 開会挨拶： 浦野 紘平（日本学術会議連携会員／横浜国立大学）
- (2) 特別講演（9:05～10:05）
 - 1-01 IPCC を中心とした建築・住宅の温暖化対策に関する世界の動き
： 吉野 博（東北大学）
- (3) 建築・住宅の省エネルギー性能（10:05～14:00）
 - 司会：長岡 裕（日本機械学会／武蔵工業大学）
 - 1-02 建築・都市エネルギーシステムの新技術
： 岡 建雄（空気調和・衛生工学会／宇都宮大学）

- 1-03 住宅関連の省エネルギー技術
： 中上 英俊（日本機械学会／㈱住環境計画研究所）
- 1-04 住宅の CO₂ 削減量の都道府県市町村別将来推計
： 伊香賀俊治（日本建築学会／慶應義塾大学）
- 1-05 建築の省エネルギー化の現状と将来
： 川瀬 貴晴（日本建築学会／千葉大学）
- 1-06 太陽熱利用の現状と課題
： 浅井 俊二（日本太陽エネルギー学会／矢崎総業㈱）
- 1-07 ヒートポンプ・冷凍システムの開発動向
： 小山 繁（日本冷凍空調学会／九州大学）

(4) 都市レベルの取組み（14:10～16:00）

- 司会：柳沢 幸雄（大気環境学会／東京大学）
- 1-08 都市ヒートアイランド対策の地球温暖化対策効果
： 玄地 裕（化学工学会／（独）産業技術総合研究所）
- 1-09 大気環境からみた都市交通システムのあり方
： 片谷 教孝（大気環境学会／桜美林大学）
- 1-10 東京都水道局における環境保全への取組み
： 芦田 裕志（日本水道協会／東京都水道局）
- 1-11 東南アジアにおける埋立地 CDM プロジェクト
： 山田 正人（土木学会／（独）国立環境研究所）

(5) 地球温暖化の現状と社会の動向（16:00～18:00）

- 司会：大島 義人（日本化学会／東京大学）
- 1-12 地球温暖化の科学—その現状と将来に向けて
： 市村禎二郎（日本化学会／東京工業大学）
- 1-13 地球観測による二酸化炭素増加の実態と今後の動向
： 松枝 秀和（日本分析化学会／気象庁気象研究所）
- 1-14 温暖化と再生可能エネルギー—人々はどう理解しているのか
： 土屋 智子（日本リスク研究学会／（財）電力中央研究所）
- 1-15 民生部門の温暖化対策の LCA 評価
： 八木田浩史（廃棄物学会／日本工業大学）

第2日目（4月15日）

(6) 資源循環（10:00～11:50）

- 司会：中島 淳（日本水環境学会／立命館大学）
- 2-01 資源工学からみた地球温暖化問題への取り組み課題例
： 小林 幹男（環境資源工学会／（独）産業技術総合研究所）
- 2-02 分離分散型排水処理システムの環境負荷評価
： 大瀧 雅寛（日本水環境学会／お茶の水女子大学）
- 2-03 21 世紀の循環社会を考える—ポリ乳酸のケミカルサイクルと地域循環社会システム
： 白井 義人（高分子学会／九州工業大学）
- 2-04 セメント産業における原燃料の利用
： 三浦 啓一（日本セラミックス協会／太平洋セメント㈱）

(7) 特別講演（13:00～14:00）

2-05 日本低炭素社会構築シナリオー二酸化炭素 70%削減をめざして
： 西岡 秀三（独）国立環境研究所）

(8)省エネルギーに関する新技術（1）（14:00～15:50）

司会：勝見 武（地盤工学会／京都大学）

2-06 メタンハイドレード分解にともなう地盤環境の変動とその解析法

： 岡 二三生（地盤工学会／京都大学）

2-07 次世代超々臨界圧発電技術（A-USC）

： 渡辺 和徳（日本鉄鋼協会／（財）電力中央研究所）

2-08 CO₂回収・貯留（CCS）と省エネルギー

： 小出 仁（資源・素材学会／早稲田大学）

2-09 下水処理場における曝気槽水面の気液接触効率改善による酸素供給に要する省エネルギー化

： 今井 剛（土木学会／山口大学）

(9)省エネルギーに関する新技術（2）（16:00～17:25）

司会：川崎 晃（日本土壌肥料学会／（独）農業環境技術研究所）

2-10 バイオマスエネルギー利活用システムの設計と評価

： 藤江 幸一（環境科学会／横浜国立大学）

2-11 水で地球を冷やす

： 佐藤 春樹（日本機械学会／慶應義塾大学）

2-12 農業分野からの温室効果ガス排出削減策

： 八木 一行（日本土壌肥料学会／（独）農業環境技術研究所）

(10)閉会（17:25～17:30）

閉会挨拶：井上 隆

（第 22 回環境工学連合講演会実行委員長／東京理科大学）

1 6	
幹事会	5 1

提 案

シンポジウム「子どもの健康づくりと食育」の開催

1. 提案者 歯学委員会委員長
2. 議 題 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議 歯学委員会臨床系歯学分科会、
2. 共 催 有限責任中間法人日本小児歯科学会
3. 日 時 平成 20 年 6 月 12 日（木） 14：00～16：00
4. 場 所 大宮ソニックシティ（埼玉県さいたま市）

5. 次 第

（1）開催趣旨

子どもにとっての食育とは心身の成長だけでなく、人格形成に大きな影響を与え、生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育んでいく土台づくりである。まさに、食は単なる栄養摂取ではなく、豊かな人間性の土台づくりとして楽しみ・美味しく食べることであり、その基本を支える重要な因子が口と歯の健康づくりといえる。このような観点から、国民に子どもの口や歯の健康づくりと食育とが密接に関わっていることを理解してもらう必要がある。そこで、子どもの健康づくりと食育との関連性について理解を深める狙いから、子どもの健康づくりに深く関わる日本小児歯科学会とシンポジウムを共催する。

（2）プログラム

- 1) 開会の辞 渡邊 誠（日本学術会議第二部会員、臨床系歯学分科会委員長、東北大学副学長）
- 2) 講演およびシンポジウム：子どもの健康づくりと食育
座長 山崎 要一（日本小児歯科学会学術委員会委員長、鹿児島大学教授）

14 : 00～14 : 45 小児歯科が推進する食育支援
向井 美恵 (日本学術会議連携会員、昭和大学教授)

座長 朝田 芳信 (日本学術会議連携会員、鶴見大学教授)

14 : 45～ ① 歯列・咬合の発育と食育 (仮題)
山本 照子 (日本学術会議連携会員、東北大学大学院歯学研究科教授)

15 : 05～ ② 子どもの食と衛生 (仮題)
春日 文子 (日本学術会議第二部会員、国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部室長)

15 : 25～ ③ 子どもの傷害予防へのアプローチ (仮題)
山中 龍宏 (日本学術会議連携会員、緑園こどもクリニック院長)

15 : 45～ 全体討論

3) 閉会の辞 渡部 茂 (第 46 回日本小児歯科学会大会大会長、明海大学教授))

6. 分科会の開催

同日、同場所において分科会を開催予定

1 7	
幹事会	5 1

提 案

公開シンポジウム

「食と健康・予防医療を考えるーミネラルと油脂栄養の重要性」の開催

- 1 提案者 農学基礎委員会委員長
- 2 議 案 標記公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議農芸化学分科会、
日本土壌肥料学会 2008 年愛知大会運営委員会
2. 日 時 平成 2 0 年 9 月 1 1 日 (木) 1 3 : 0 0 - 1 6 : 0 0
3. 場 所 名古屋市立大学川澄キャンパス中央診療棟 3 F 大ホール
4. 分科会 同日分科会を開催予定

開催主旨

国民の食育、食と健康に関する関心は益々高くなっており、食生活の重要性が強く認識されつつあります。一方、野菜摂取量不足等によるビタミン、ミネラル不足あるいは油脂・脂肪（リノール酸、トランス脂肪酸）の取りすぎ等による栄養摂取のアンバランスがガン、心疾患等の生活習慣病を助長しているとされています。上記テーマでの本シンポジウムが国民の健康増進、生活習慣病の予防等を通して、積極的に「食と健康」さらには「予防医療」に貢献することを期待します。

開会挨拶 木村 真人（名古屋大学大学院生命農学研究科教授、日本学術会議連携会員、日本学術会議農芸化学分科会幹事）

I 講 演（13:10～15:30）

- 1) 奥山 治美（名古屋市立大学薬学部名誉教授）
「人の健康に大切な油脂栄養と予防医療」（仮）
- 2) 徳留 信寛（名古屋市立大学医学部教授）
「予防医療の重要性、健康維持に大切な紫蘇(しそ)油・野菜」
- 3) 加藤 俊博（愛知県農業総合試験場）
「人を健康に、山間地を活性化するエゴマ生産」
- 4) 織田 久男（エーザイ(株)生命科学研究所）
「畑に不足するミネラル・微量要素の効用」
- 5) 渡辺 和彦（東京農業大学客員教授）
「微量要素管理の重要性・作物と人の健康」

II 総合討論とまとめ（15:30～16:00）

木村 真人（名古屋大学大学院生命農学研究科教授、日本学術会議連携会員、日本学術会議農芸化学分科会幹事）

閉会挨拶：三枝 正彰（豊橋技術科学大学特任教授、日本学術会議連携会員、日本学術会議農芸化学分科会委員）

参 加 費：無 料

参加受付：先着順（定員 3 0 0 名）

問い合わせ先：E-mail : jspn2008@sda.nagoya-cu.ac.jp

名古屋市立大学芸術工学部 岡 村 穰 Tel.052-721-3209(直通)

愛知県農業総合試験場 加藤 俊博 Tel.0561-62-0085(代表)

1 8	
幹事会	5 1

シンポジウム「IFAC 国際シンポジウム SYROCO 2009」の開催

1. 提案者 野口 伸（第二部会員）、笠木伸英（第三部会員）、小林敏雄（第三部会員）
後藤俊夫（第三部会員）、柘植綾夫（第三部会員）
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議
2. 共 催 国際自動制御連盟（IFAC: International Federation of Automatic Control）
国際自動制御連盟ロボティクス技術委員会（IFAC TC on Robotics）
IFAC-TC on Control Design (DMC)
IFAC-TC on Human Machine Systems
岐阜大学
3. 後 援（予定） 文部科学省、岐阜県、岐阜市、岐阜県工業会
4. 日 時 平成21年9月9日（水）～9月12日（土）
5. 場 所 長良川国際会議場 （岐阜市長良福光 2695-2）
6. 次 第
開催趣旨

本シンポジウムは、国際自動制御連盟内にあるロボティクス技術委員会が母体機関となつて3年に一度開催される、ロボット制御分野における科学技術の権威あるシンポジウムである。本シンポジウムにおいては、ロボット分野における運動学、動力学、ロボットの同定、制御法、センサー、アクチュエータ等の基本原理のみならず、バーチャルリアリティ応用のロボティクス、手術支援ロボット、リハビリテーション支援ロボット、宇宙用ロボット、レスキューロボット、各種サービスロボットなどの分野横断的なロボット制御技術について、意見の交換、議論を行うことを目的としている。

開会あいさつ：木村英紀（理研、IFAC理事、日本学術会議連携会員）

I 講 演

- 1) プレナリー講演 計画中
- 2) 招待講演 計画中
- 3) 一般講演
- 4) その他

II 討論など

パネル討論 企画中

閉会あいさつ：国際自動制御連盟ロボティクス技術委員長

参加者数（予定数） 合計：約 250 人 （国外 120 人，国内 120 人，招待 10 人）

19	
幹事会	51

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
感覚器サミット ① 主催：感覚器医学協議会 ② 会期：平成 20 年 3 月 12 日 ③ 場所：六本木アカデミーヒルズ 40	感覚器医学協議会会長	第二部
企画展「秦佐八郎博士サルバルサン探索 99 年記念展示会魔法の弾丸 99 年の歩み」 ① 主催：秦佐八郎博士記念展示実行委員会 ② 会期：平成 20 年 6 月 5 日～8 日 ③ 場所：岡山市デジタルミュージアム 4 階企画展示室・講義室	秦佐八郎博士記念展示会実行委員会実行委員長	第二部

基礎生物学委員会・応用生物学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・
化学委員会・総合工学委員会合同
基礎科学の大型計画のあり方と推進方策検討分科会

基礎科学の大型計画のあり方と推進方策検討分科会審議記録

1. はじめに

本分科会は、日本の基礎科学における大型計画の推進はいかにあるべきかについて、広い分野の委員による検討を行い、日本学術会議対外報告「基礎科学の大型計画のあり方と推進について」（2007年4月10日、以下、「対外報告」という）を取りまとめた。「対外報告」では、現在日本の基礎科学の大型計画が直面している大きな困難と課題を踏まえつつ、以下二つの提言を行った。

- (1) 基礎科学の大型計画にかかわる長期的マスタープラン・推進体制の確立
- (2) ボトムアップ型と国策的大型研究のかかわり・協力と将来のあり方

その上で、これらの提言についてまず検討のための枠組みを作り具体的な構想に進むこと、また日本学術会議は幅広い学術コミュニティを代表してそのために積極的な役割を果たすことを述べた。

今後、日本学術会議としてその具体的実現に向けたステップに進むことが必要である。ただし、上の二つの提言は、共に日本の科学のレベルを高め長期的発展を図るために欠かせない課題であるものの、検討の対象とする範囲や具体的内容が異なることから、それぞれに段階を踏んで検討・具体化を進めることが適切と思われる。以上のことから、本分科会は以下のとおり提案する。

2. 日本学術会議における学術の長期展望・長期政策の策定について

「対外報告」要旨は、当面検討・具体化を急ぐべき提言(1)について、次のように述べている。

- (1) 基礎科学の大型計画にかかわる長期的マスタープラン・推進体制の確立
- ・ 基礎科学の研究分野に対し、全体を俯瞰する視点から各分野の将来の動向を調査し、科学の視点と長期的展望に立脚した長期的マスタープランを作成し着実に推進する組織体制を構築する必要がある。
- ・ この長期的マスタープランに基づき、基礎科学の大型計画に対して透明性の高い審査・評価を実施し、それを踏まえた政策的判断を経て、予算配分を行うことが望ましい。
- ・ このような仕組みについて、関係方面が連携して具体的に検討を始めることを提言する。

このような科学のマスタープラン作りを進めるに当たっては、大型計画のみを進めるのではなく、日本の科学・学術全般にかかわる長期的マスタープラン（長期展望・長期政策と言い変えてもよい）を検討策定し、その中で大型計画のマスタープランが全体のバランスにも配慮しつつ位置づけられてゆくことが望ましい。

欧米諸国におけるこのような科学の総合的マスタープラン作りは、科学の広い分野を網羅するアカデミーあるいはリサーチ・カウンシルなどが、各分野の研究者コミュニティにおける組織的な討議を経て総合的に取りまとめ、科学行政機関がそれを踏まえつつ予算要求・実行に当たることが多い。

一方、日本では、科学の広い立場から科学・学術研究推進の長期的展望やマスタープランを議論する場は、明確ではない。日本学術会議においては、これまでも理学・工学系の分野を中心に、分野の長期計画を検討し研究者コミュニティの総意を形成する活動が続けられてきた。第20期の新生日本学術会議においても、一部の分野別委員会・分科会等で議論がすでに始まっている。

こうした検討を特定の分野においてのみ進めるのではなく、日本学術会議全体として第一部・第二部・第三部を網羅し、分野の特性や状況に応じたそれぞれの形で組織的に進めること、またこれらの検討結果を日本の学術の長期展望として取りまとめ、それを踏まえて学術の長期政策を審議・提言することが、日本学術会議に求められていると考える。これを通して、日本の学術のあり方、方向性を日本社会に対して明確にするとともに、科学・学術の推進プロセスの透明性を高め、分野等のバランスにも配慮してゆくことが期待できる。

大型計画のマスタープランづくりも、日本学術会議におけるそうした活動を踏まえ、その一環として進められるべきものであろう。

【提案】日本学術会議による「日本の学術の長期展望（仮称）」の策定

1. 大型計画を含め、学術の各分野における10～20年程度を視野に入れた展望と長期計画の総合的・体系的な検討、およびそれらを取りまとめた「日本の学術の長期展望（仮称）」作りを、日本学術会議として定期的に行い、政府に報告する。また総合科学技術会議・関係府省庁等に提示するとともに、広く国民に開示する。
2. これをもとに、「学術長期政策」の提言を適時に行い、科学技術基本計画等国の政策に適切に反映させる。
3. 以上を進めるための体制の構築を、日本学術会議において検討する。具体的には、「学術長期展望委員会（仮称）」といったものを、日本学術会議の常設委員会として設置するのも、一つの方法と考えられる。

(補足)

- 1) 各分野では、各分野別委員会、分科会、あるいは適切な合同などにより、それぞれの「10～20 年展望（分野によっては 10～20 年計画）」の検討を行い、これが全体の長期展望・計画の基礎となることが考えられる。長期展望・計画は、学術分野のそれぞれの研究形態や特質を考慮して、多様な形式が各分野で工夫されることが前提である。
- 2) 日本学術会議全体としての「日本の学術の長期展望（仮称）」は、上記の検討結果を踏まえ、総合的視点を加えて取りまとめる。大型計画は其中でひとつのセクションを構成し、それが日本学術会議としての「学術の大型計画マスタープラン」となることが望ましい。
- 3) 検討を進める必要からも部分的に立ち上げてゆく（例えば大型計画、すでに長期計画の検討を進めている分野など）ことも考えられるが、基本的にはできる限り足並みを揃えることが望ましい。
- 4) 科学技術関連機関などで将来展望の検討・集約がある程度行われている分野もあるが、予算配分にかかわらない学術団体がこのような活動を行うのが望ましく、国際的に見ても日本学術会議が中心となってその任に当たるべきであろう。

3. 大型科学のあり方と推進方策に関する検討について

「対外報告」要旨は、ボトムアップ型と国策的大型研究に関する提言において、次のように述べている。

提言(2) ボトムアップ型と国策的大型研究のかかわり・協力と将来のあり方

- ・ 大学等におけるボトムアップ型研究と独法等における国策的大型研究の研究者・研究体制の関わり・協力、および将来のあり方を検討し明確化するための具体策について、(1)と同様な枠組みのなかで検討を進めることを提言する。
- ・ 国策的科学技術の大型プロジェクトでも、共同利用的色彩や基礎科学研究と関連の深い性格を持つものは、基礎科学の大型計画と同様な場で審査・評価をする必要がある。
- ・ ボトムアップ型大型研究が依拠してきた共同利用に関しても、新しい状況を踏まえて、そのあり方と新たな方向性を検討するべきである。

現在、文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会（研究環境基盤部会、同部会学術研究の推進体制に関する作業部会）における大型計画推進についての検討や、第3期科学技術基本計画における大型計画への言及などがある。これらの状況を踏まえ、日本学術会議および関連機関の関係者により、上記の提言についてさまざまな角度から議論検討する非公式の「検討会」を設けるところからスタートすることが考えられる。当面の「検討会」の形態は、(1)有志による懇談会的なもの、(2)日本学術会議に分科会的な組織を作り、関係機関から適宜メンバーを招請する、などが考えられる。

なお「検討会」においては、「対外報告」の提言（２）を中心とする上記の課題のほか、提言（１）に関連する長期展望・長期政策の方向性や、当分科会において提起された以下の中長期的課題等についても、随時意見の交換を行うことが望ましい。

- ① 大型計画の評価とスクリーニング・審査・決定の透明なプロセスのあり方
- ② 基礎科学や大型計画に関するポートフォリオなど予算にかかわる考え方
- ③ 大型計画と基礎的研究とのバランスなどの考え方（生命科学など新たな形の「大型計画」の可能性・性格・あり方を含む）
- ④ 国策的大型計画と基礎科学の大型計画との関連、バランス、連携（大型研究の推進に必要な人材の育成、研究組織のあり方などを含む）
- ⑤ 新しい共同利用・連携のあり方（大学・共同利用機関の共同の強化と将来の方向、「共用」との関連、等）
- ⑥ 日本学術会議、総合科学技術会議、文科省科学技術・学術審議会等学術関連機関の協力関係

４．基礎科学の大型計画の着実な推進

「対外報告」要旨は、上記提言と合わせ、現在の大型計画の停滞を踏まえて、以下のように述べている。

なお、この枠組み作りの間も、世界をリードし継続的に人材を育成するため、各分野で現在検討が進んでいる基礎科学の大型計画を、適切な審査を経て着実に進めることが重要である。

文部科学省科学技術・学術審議会においてもこの問題を取り上げて検討を進めていること、米国では中国などの台頭に対応して米国科学財団（NSF）等の科学予算の増額を加速する「米国競争力法案」を決定したことなどを踏まえ、学術研究全般の推進と整合性をとりつつ、関係方面と連絡を密にして当面の大型計画の着実な推進を引き続き追求する。

（以上）

参考 3

○日本学術会議における今後の予定

(1) 幹事会

- | | | |
|-----------|-----------------|---------|
| ① 第52回幹事会 | 平成20年 3月 6日 (木) | 14:00から |
| ② 第53回幹事会 | 平成20年 4月 7日 (月) | 総会終了後 |
| ③ 第54回幹事会 | 平成20年 4月 8日 (火) | 総会終了後 |
| ④ 第55回幹事会 | 平成20年 4月 9日 (水) | 委員会終了後 |
| ⑤ 第56回幹事会 | 平成20年 5月22日 (木) | 14:00から |
| ⑥ 第57回幹事会 | 平成20年 6月26日 (木) | 14:00から |
| ⑦ 第58回幹事会 | 平成20年 7月24日 (木) | 14:00から |
| ⑧ 第59回幹事会 | 平成20年 8月28日 (木) | 14:00から |
| ⑨ 第60回幹事会 | 平成20年 9月 4日 (木) | 14:00から |
| ⑩ 第61回幹事会 | 平成20年 9月18日 (木) | 14:00から |

(2) 総 会

- | | |
|--------------------------------|----------|
| ① 平成20年 4月 7日 (月) から 9日 (水) まで | [春の定例総会] |
| ② 平成20年 7月14日 (月) | [臨時総会] |